

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和8年3月10日

コミュニティ名	「理科」授業づくり研究会
代表者所属名	綾部市立綾部小学校
代表者職・氏名	教諭・岡 祐馬

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

「理科」授業づくり研究会

2 研究テーマ

- ・理科の見方・考え方を働かせ問題解決の力を身に付けるための授業改善を行う。
- ・「個別最適な学び」「協働的な学び」という観点から、理科授業を捉え直す。

3 研究の目的

小学校理科の学びにおいて「問題解決」は重要である。問題解決型の授業づくりはこれまでも大切にされてきたことであり、これからも大切にしていけるべきことである。しかしながら、問題解決の過程自体が固定化されたり、硬直したりしてはいないだろうか。

本研究会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実という観点から、理科の「問題解決」を見つめ直すことで、理科の授業づくりのバリエーションを広げたり、柔軟性を高めたりしたいと考える。小学校の教員に限らず、中学校の教員とも連携して研究を進めることで、様々な視点から問題解決の活動を捉え直していけるような研究組織を目指す。

4 研究の成果と課題

<p><成果></p> <p>多くの授業研や授業参観を実施することで、問題解決能力を育成するための効果的な授業展開や、児童が葛藤しながら思考を深める授業の構成について、コミュニティ内で学び合うことができた。</p> <p>これらの取組により、授業のバリエーションが拡充され、児童の主体的な学びを促進する授業づくりに向けた知見を共有することができた。</p> <p><課題></p> <p>事前研を持つことが難しかったため、今後はTeamsを活用し、チャット内で質問を受け付けたり、資料を共有したりできるようにしていきたい。また、個別最適な学習の実現に向けて、単元を絞り、個々のペースで進められる自由進度学習にも挑戦ができるとうい。</p>

5 研究成果の波及方法

<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの所属校にて、学年会等で学びを広げたり、ミニ研修を設定したりする。 ・各市の理科部会にて学びの成果を報告する。

6 研究（活動）実績*

年月	研究（活動）内容（具体的に記載）	活動場所
令和7年8月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・活動計画の確認 ・教材紹介「アナグリフで見る地形」 綾部市立綾部小学校 岡 祐馬 教諭 	京都府総合教育センター北部研修所
令和7年9月22日 4	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、事後研究会 福知山市立惇明小学校 井上 尚俊 教諭 ・実践報告「月と太陽」 綾部市立綾部小学校 岡 祐馬 教諭 	福知山市立 惇明小学校
令和7年10月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、事後研究会 綾部市立中筋小学校 藤岡 彩佳 教諭 	綾部市立 中筋小学校
令和7年11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、事後研究会 舞鶴市立中筋小学校 小林 翼 教諭 	舞鶴市立 中筋小学校
令和7年12月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 研究協議（府小研2年次研究協議器） 相楽東部広域連合立笠置小学校 	相楽東部広域連合 立笠置小学校

令和8年2月3日	・授業参観、事後研究会 福知山市立六人部中学校 岡井 裕幸 教諭	福知山市立 六人部中学校
令和8年3月9日	・実践交流 ・1年間のまとめ	京都府総合教育セ ンター北部研修所

7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究（できるだけ具体的に）

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の見方・考え方を働かせ問題解決の力を身に付けるための授業改善を行う。 ・「個別最適な学び」「協働的な学び」という観点から、理科授業を捉え直す。
育てたい資質能力	問題解決の力
実践又は研究の 具体的内容	<p>5年「ふりこのきまり」</p> <p><理科の見方・考え方を働かせるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・条件制御を意識させたり、理解させたりするために、実験計画を表でまとめさせる。その結果、変数の値が比較しやすくなり、実験計画が立てやすくなる。 ・計画を立てる段階で、結果の見通しを持たせる。結果の見通しを持つことにより、何を確かめるための実験が明確になり、予想とつながった考察ができるようになる。 <p><「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実のための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ予想の児童でグループを構成することで、主体的に計画を立てたり、実験を取り組んだりすることができる。 ・「まなボード」(IZUMI)を活用することで、グループでの活動が行いやすく、その結果、グループの協議やグループ間の交流が促進される。 ・変数の値を選択性（重さは10g、20g、30gから選ぶなど）にすることで、思考の手立てになったり、他のグループと比較しやすくなったりする。